

令和 7 年 4 月

名古屋市立中・高等学校長 様

部活動振興課長

種目ごとの部活動中のヒヤリハット事例 および種目の特性を踏まえた安全対策について

－「中学校部活動における事故に関する調査委員会」を受けて－

各学校におかれては、日頃より部活動中の生徒の安全確保に取り組まれているところですが、令和 6 年度において、事故発生後の緊急対応が不適切と判断される事案が発生しました。

そこで、教育委員会では、令和 6 年 1 1 月に「中学校部活動における事故に関する調査委員会」を設置し、部活動中の生徒の安全確保や保護者の信頼を確保するための検討を重ねてまいりました。

つきましては、見出しの一覧表を作成しましたので、各学校において、部活動の安全対策に活用ください。

なお、ここに記載されているヒヤリハット事例及び安全対策は、他の種目においても大いに参考になると考えております。

部活動顧問、外部顧問、外部指導者におかれましては、担当する種目だけでなく、他の種目の事例・安全対策についてもよくお読みいただき、担当する部の安全対策に生かしていただくようお願いいたします。

ご不明な点等ございましたら、部活動振興課まで問い合わせください。

教育委員会部活動振興課

TEL 2 9 1 － 4 6 7 5

FAX 9 7 1 － 5 1 6 0

I P 6 4 4 － 0 6 4

No.	種目	ヒヤリハット	種目の特性を踏まえた安全対策
1	陸上競技	・1500メートル走のスタート直後、オープンレーンのため、隣の選手と接触しスパイクを踏まれることがあった。	・長距離種目において、1組12人を超える場合は、グループスタートを活用して2段階に分けている。 ・夏期の熱中症対策として、トラックに散水したり長距離種目では、レース中の給水エリアを設けている。
2	水泳	・大会時、プールサイドで足を滑らせ転倒することがあった。放送等で注意喚起をしていたが、早歩きで移動していたようで、転倒してしまった。大事には至らなかったが、スタート台付近で段差があったため頭部をぶつける可能性もあった。 ・経験の少ない選手がウォーミングアップ中に途中でコースロープに捕まるケースがあった。	・大会では、競技中はプールサイドにライフガードを数人配置して、安全管理をしている。 ・プールの水深が2メートル近くあり、途中で立つことができないため、ウォーミングアップの際は端のレーンを競技経験の少ない選手用にしておいて途中退水できるようにしている。
3	野球	・バットのグリップが劣化していて、バッティング練習中にバットが飛んでいたことがあった。 ・キャッチボール時に隣との間隔が十分に取れず、隣のペアにボールが当たりそうになったことがあった。	・月1回の道具点検を実施している。 ・距離やネットの配置を工夫している。
4	ソフトボール	・センターの守備をしていた際に日差しが目に入り、フライ打球が目にはノーバウンドで当たることがあった。 ・スライディングの際にペグでけがをすることがあった。	・日差しが強く、プレーに支障がある場合はサングラスの着用を認めている。 ・スライディングする箇所のペグを除去している。
5	バスケットボール	・熱中症の季節はこまめな水分補給、休憩を心がけ、体育館の冷房を利用してはいたが、練習の強度を上げると体調不良を訴える生徒が現れ、その場で嘔吐することがあった。 ・空中で接触し、着地の際にケガをすることがあった。	・こまめな水分補給や休憩を行い、熱中症対策を周知徹底している。 ・空中で接触して着地に失敗し怪我をすることが多いため、正しい姿勢で不要な接触は避けるよう指導している。
6	バレーボール	・スパイクの練習時に転がっているボールをきちんと管理せず、着地時にボールの上に乗ってしまい転倒する恐れがあった。	・防球ネットを立ててボールの侵入を防いだりネット際に数人配置する。 ・支柱と支柱の間にゴムひもや専用のバンドを張って、ネット際の足の交差を防いで練習している。 ・ブロック練習では骨折や脱臼を防ぐために軍手などを使用することもある。

No.	種目	ヒヤリハット	種目の特性を踏まえた安全対策
7	ハンドボール	試合でラフプレーが多くなり、ケガにつながるがあった。	- 普段の指導はもちろんのこと、試合においては、身体接触に対して積極的にイエローカードを提示し、重大なケガや事故につながらないように指導している。 - 熱中症対策として、夏の大会において、タイムアウトとは別に給水タイムを設けている。
8	サッカー	- 空中にあるボールをヘディングで競り合う際、一方の選手がジャンプしないため足元に入ってしまう、相手選手が空中でバランスを崩すことがあった。 - スライディングに遅れて入り、ボールでなく足にスライディングをする場面があった。	- 足を上げるスライディングや足元に入る動きに関する安全指導を徹底している。 - レガースの着用、スパイクのポイントの安全確認、爪の長さの確認をゲーム開始前に行っている。
9	ラグビー	1対1のタックル練習時、隣のグループの選手とぶつかってしまうことがあった。	- ヘッドギア、マウスピースを義務づけている。 - 競技経験の少ない1年生を集めた練習会を定期的実施している。
10	ソフトテニス	- ラケットでの球出し中に練習者の打ったボールがラケットにあたり、自分のラケットでおでこを打つことがあった。 - 球出しがそれて、それたボールを追いかけた生徒と他の生徒が接触しそうになることがあった。	- 人が打っているときは半径2～3メートル離れるように指導している。 - お互いに人がいるときはラケットを振らない、人が打っているときは突如後ろに下がって打つ時もあるので前を向いて見ておく、ネット前のボールを拾うときはネットよりも低く姿勢をとって拾うことを指導している。
11	卓球	- 練習中は他の生徒と近づきすぎないように、周りを見て動くように指導していたが、スイングしたラケットがボール拾いをしていた生徒に当たってしまうことがあった。 - 卓球の台の移動のさせ方について指導していたが、力のかけ方、方向を誤ってしまい台が倒れ、生徒に当たるがあった。	ラケットが当たったり、台の取扱い方を間違えたりすると重大な事故につながる可能性があることを繰り返し指導・注意喚起している。
12	体操	- 鉄棒の練習中、勢いがついてバーから手が離れてしまい、投げ出されることがあった。 - 宙返りの練習中、空中で無理だと思い中途半端な状態で着地(落下)してしまうことがあった。	- 鉄棒には必ず補助者がつくようにしている。大会直前の公式試合練習では、どの種目も補助者をつけるようにしている。 - ウレタンマットの使用を認めている。大会本番では、補助は入るものの補助してしまうと、その技の得点が入らなくなるので、練習の時点で無理と判断した場合、演技構成を変えている。

No.	種目	ヒヤリハット	種目の特性を踏まえた安全対策
13	ダンス	・発表会で舞台上が暗くなった際、階段の上り下りで子どもが転倒しそうになる場面があった。	・上り下りするときは照明を明るくするようにしている。 ・裸足で演技するときは、床に怪我をしそうなものが落ちていないか暗然確認をしている。
14	柔道	・畳が常設ではないので、練習中に畳のズレが起こり、その隙間に足が入ったり、畳が滑ったりと危険だと感じるがあった。 ・クラブチームの選手との実力差が年々広がってきている。体つきや技のキレ、経験の差から頭を打ってしまうことがあった。	・練習前に、畳の安全確認をしている。 ・試合への参加は少なくとも、6ヶ月以上の柔道経験を積み、到達レベルを基に判断している。
15	剣道	・引き技練習中に転んだり、生徒同士ぶつかることがあった。 ・面を打突した時に割れた竹刀が目刺さりそうになったことがあった。 ・竹刀の手入れがされてなく、竹刀が割れている状態で練習することがあった。 ・形練習で木刀が当たるがあった。	・同じ方向を向いて練習をしている。 ・練習前に必ず竹刀の点検をしている。 ・熱中症対策として、ストローを用意して面をつけたままで水分補給ができるようにしている。 ・木刀の稽古の時に防具をつけて練習している。
16	バドミントン	・ノック中にコート内に落ちているシャトルを踏んで捻挫することがあった。 ・素振りの際、周りの生徒にぶつかってしまうことがあった。 ・対面での練習時、打ったシャトルが他の生徒の目に当たるがあった。	・コート内のシャトルは周りの人ですぐに拾うようにしている。 ・素振りは同じ方向を向き、2メートル以上離れて行っている。 ・大会参加時はフロア以外でラケットを使ったアップはしないように指導している。 ・練習時、シャトルが飛び方向の生徒は対面で立たないようにしたり、立つ場合は下を向くようにしたりするなど、シャトルが目にあたらないようにしている。